

2015年第3回理事会 議事録

日時および開催場所:2015年9月27日 16時00分~18時15分. 富山大学共通教育棟 A11号室.
出席者:井口正人, 篠原宏志, 市原美恵, 北川貞之, 下司信夫, 嶋野岳人, 千葉達朗, 西村太志, 橋本武志, 藤田英輔, 萬年一剛, 吉本充宏, (12名)

各委員会からの活動報告及び議事

1. ジオパーク支援委員会

活動履歴について報告された。

連合大会に合わせて5月29日に委員会を開催した。

秋季大会ではジオパークの特別セッションを9月28日午前に実施する。「活動的火山を抱えるジオパークや観光地からの情報発信のあり方」に関する発表など11件の発表が予定されている。なお来年以降の秋季大会におけるセッションの設置については、魅力的な話題があった時など不定期に開催する予定。本年度、日本ジオパークとして、栗駒山麓、美祢、三島村の3カ所があらたに認定された。またアポイ岳が世界ジオパークに認定された。また、この11月のユネスコ総会において、グローバル・ジオパークの活動がUNESCOの正式プログラムになる予定である。

防災委員会や大会委員会と協力して、改訂版となる「Q&A 火山噴火. 127の疑問」(講談社ブルーバックス)を出版した。

2. 火山防災委員会

防災委員会が中心となって、登山者向けの火山の防災知識をまとめたリーフレット「安全に火山を楽しむために」を発行した。印刷物として配布するほか、元ファイルを学会ホームページ上にてダウンロード可能にした。内容を改変しない限り複製・配布を自由とする。また、企業などの広告を加えて配布することも念頭においており、アウトドア関係の会社など数社に打診している。

本日(27日)火山防災シンポジウムの一般普及講演および公開講座を実施した。多くの参加者があり盛況であった。

内閣府:活火山における退避壕の整備等に関する検討ワーキンググループが開催され、吉本・及川・石峯・宝田委員が参加している。これまでWGを7回実施し、退避壕の整備等に関する手引き案が公表される予定である。

3. 庶務委員会

会員数動向について報告した。5月の通常総会以降、52名の新規入会があった。内訳は、維持会員8名、学会会員35名、一般会員9名である。同時に、2名の退会、7名の除名があり、その結果今回の臨時総会時における会員数は1054名(維持会員292名、学会会員683名、一般会員79名)である。団体会員は16件で増減はない。

2016年の理事選挙について計画案の報告と、選挙管理委員の推薦が行われた。現理事の任期満了にともなう理事選挙を実施する。選挙管理委員会として、委員長に高橋正樹会員、委員に森俊哉会員・高田亮会員を庶務委員会より推薦し、理事会にて承認された。選挙日程は、2016年1月上旬に公示を行い、2月~3月ごろに投票、4月上旬に開票、5月の通常総会にて確定することを予定している。

理事選出予定数は 15 名とすることが了承された。

今年は 5 年ごとに実施している名簿作成の年にあたるため、会員情報の確認を行う。なお、今回の名簿は印刷体の作成のほか PDF 化した原稿をパスワード保護のもと、会員限定のホームページ上で閲覧可能にする予定である。

4. 編集委員会

1)「火山」の編集進行状況が報告された。現在 60 巻 3 号が間もなく印刷される。露頭データベースの特集号の 3 集目にあたる。4 号は 60 周年の記念特集となり、3 月末ごろに出版予定である。また、査読編集状況は、通常論文 8 件、特集号論文 4 件が査読中である。

2)J-STAGE への移行について、利用説明会に事務局が出席。利用申し込みを申請中。CiNii データの移行申請は来年 2 月 1 日より開始される。J-STAGE へのデータ移行は CiNii が行い、その後学会側で新 PDF との差し替えを実施する。CiNii からのデータ移行は年単位の時間がかかる予定である。なお、第 36～48 巻の PDF 化について、2 社から見積もりを取った。そのうちの 1 社に 1 冊サンプル作成を依頼し、品質に問題がないことを確認した。近日中に正式発注する。J-STAGE での公開までの間、学会 HP にて公開する予定。

3)編集委員会内で編集規定の見直し作業中である。最終案については理事会にて承認を得る。電子投稿を前提とした投稿規定にすること、学術論文としてオリジナル条件を課す投稿種別を明確化すること、二重投稿に関する規定を設けることなどを盛り込む予定。

4)冊子体を廃止して PDF 出版のみにする場合の費用について見積もりを取った結果、100 ページ×4 号として年間 125 万円程度が見込まれる。年間の印刷経費との差額や、印刷物を廃することによる別刷の収入減、あるいは図書館等への寄贈などの問題について、引き続き検討することとなった。

5. 大会委員会

報告事項

秋季大会の準備状況が報告された。2015 年秋季大会は順調に準備が進行し、明日 28 日より学術講演会が開始する。発表件数 187 件(受賞記念講演含まず)で、口頭発表 91 件、ポスター発表 96 件である。火山学会賞受賞記念講演 2 件、研究奨励賞受賞記念講演 3 件が行われる。また、ジオパークのセッションを初日午前中に一般公開にて行う。関連行事として、火山防災シンポジウム、公開講座が行われ盛況であった。巡検旗学術講演会終了後の 10 月 1～2 日に立山にて実施予定である。

来年度の秋季大会(富士吉田)の準備状況については、大きな問題もなく順調に進行している。

2016 年連合大会の火山関連セッションについて状況が報告された。連合では現在セッション提案が募集中である。より効果的なセッション構成にするため、火山学会を提案母体とするセッション提案について提案内容を大会委員会に事前に知らせよう依頼している。現在 2 件のセッション提案が来ている。

審議事項

開催地募集要項について、議論を行なった。2017 年以降の秋季大会の開催地について、LOC 候補者から開催提案を受けることについては第 2 回理事会にて了承済であるが、具体的な応募条件等について議論を行った。

応募用紙の記載内容を簡素化した。各会場の広さや収容人数など、開催会場の詳細な情報について

開示すると、提案者が候補施設の選定などを行う際に役に立つとの意見があり、今後検討することとした。選定前に、大会委員会によるヒアリング等を行うことが必要であり、それを通して実現可能な開催案になるように、提案前後でも候補者との間での情報交換や連絡を密にする必要があることが確認された。以上の点に留意し、10月から公募を開始することが承認された。

秋季大会参加費について議論を行った。秋季大会の参加費は現在固定であり、予稿集費との名目で、会員には一律 2000 円(学生は半額)としている。これについて、財務担当理事より、学会全体の財政状況を考えると秋季大会についても収支を再検討してほしいとの意見がだされた。現在、参加費収入はほぼ予稿集印刷費に相当しており、会場借り上げ費やアルバイト雇用費などは学会本体からの支出している。火山学会の大会参加費は他学会に比較しても低額である。このような現状を踏まえ、秋季大会においても実費相当を参加費から賄うことを検討してもよいのではないかと意見がなされた。その場合、参加費の実質値上げや、開催年毎に参加費が異なることが想定されるがそれを会員にどのように説明するかについて、相当の理由が必要だとの意見が出された。また、現在の予稿集印刷費が高額ではないかと意見もだされた。本件は、全体の財務の問題として引き続き検討することで了承された。

6. 国際委員会

報告:報告:第 26 回 IUGG 総会が 6 月 22 日～7 月 2 日にチェコ共和国プラハ市で開催され、88 개국から 4230 名が参加、日本からは合衆国に次いで多い 418 名が参加した。IAVCEI の IUGG からの脱退問題について、IAVCEI 側からの提案(個人会員制の導入と IUGG 非加盟国研究者を役員に選出できること)が IUGG 規則としてほぼ受け入れられたため、脱退問題は一旦白紙となった。IAVCEI が新体制となり President が Don Dingwell となったほか、役員が交代した。

アジアコンソーシアムについて準備状況が報告された。10 月 28 日から 11 月 5 日にかけて実施する。会場が桜島から富士に変更の上、実施することとなった。山梨県富士山研究所他を会場として使用する。アジア各国から、24 名が参加予定である。日本人にも参加については旅費の補助を検討している。その旨総会で案内予定。

コンソーシアムの好評に関連して、火山学会として企業等の研修などの有料企画も考えられるとの意見があり、事業委員会にて企業・自治体等からのニーズを調査し具体的な企画案を作るということで合意された。

7. 学校教育

国際地学オリンピックが 9 月 13-20 日にブラジルで実施され日本は好成績を収めた。来年の第 10 回は三重県で 8 月 20~28 日に開催予定。

地震火山子どもサマースクールは 3 学会の連合で運営されている。来年は南紀串本にて開催予定であり、実行委員として学会から三浦大助、和田穰隆会員を推薦している。

8. 他学会

EPS 誌について、Springer との契約単価の上昇により、投稿料の大幅な値上げが予定されていることについて、関係学会にヒアリングの要望が来ている。本件についてはほぼ確定事項であり、特段の理由がない限りは実施されるものと考えられる。これに関し、会員のメリットを考えると EPS 誌との関係について火山学会としても再考すべきであるとの意見が出された。

EPS 誌の編集長の任期満了に伴う編集委員長選考が行われるため、火山学会からは選考委員会に3名を推挙することが求められており、他学会担当理事である西村理事と、西村理事が推薦する2名を学会からの推薦とすることになった。

9. 60周年記念事業委員会

本大会にて60周年記念事業に係る式典を実施し、記念事業に関するWGからの調査結果やそれに基づく提言を奥村・市原から行う。

また、火山60巻4号の特集号の編集を進めている。

火山学会主催のキャリアパスセミナーを連合大会に合わせて実施した。27名の参加者があり、活発な議論が行われた。学生15名、大学教員5名と大学からの関心が高いことがうかがわれた。好評であったことから継続的に実施することを検討している。

京都大学防災研究所研究集会を8月1～2日に京都大学宇治キャンパスおおばくプラザにて開催した。50名の参加があり、火山研究者の多様な場での活躍例や、火山研究の他分野への波及例について実例を示すことができた。WG3の報告書に結果を反映させる予定。

10. 財務委員会

財務状況が悪化しているため、各委員会の事業計画についても縮減予算を要望したい。来年度予算の編成にあたり、事業計画をそれぞれの委員会で十分検討してほしい。また、収入増についても検討してほしいとの意見が出された。

11. 原子力問題検討委員会

秋季大会期間中の28日に委員会を実施する。規制庁モニタリングの提言とりまとめの報告をおこなう。また懸案となっている倫理綱領についても引き続き議論を行う予定である。

12. 会長

火山学会の各賞の増設が提案された。趣旨として、現在の3賞以外に新たな賞を作る。火山学会賞と奨励賞の間のニッチを埋めるような賞を考えたい。たとえば年間賞や学生論文賞などが考えられる。本件については、基本的には推進することとして、具体的な賞の名称や内容などについて提案していただき、それに基づいて議論を行うこととする。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成27年11月4日

議長 井口正人

議事録署名人 篠原宏志 市原美恵